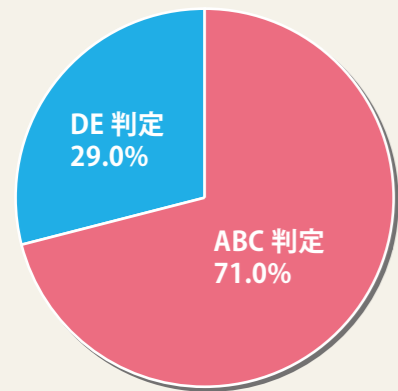


体力と運動習慣等との関係を分析したところ、

- 体を活発に動かす
- 自由な遊びのときに非常に楽しそう
- 自由な遊びのとき大人で遊ぶ
- 室内よりも戸外で遊ぶ

ことが重要であることがわかりました。

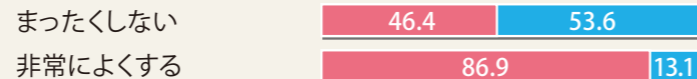
運動能力調査：体力総合評価



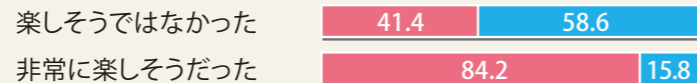
6種類の得点を合計し、高い順にA～Eの5段階に分類した。

運動能力調査：体力総合評価

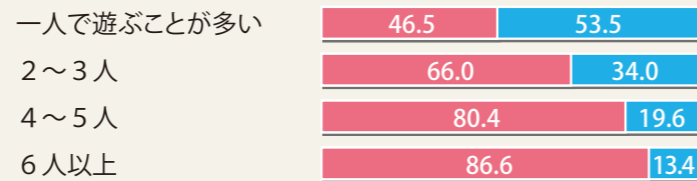
体を活発に動かす遊びをする頻度



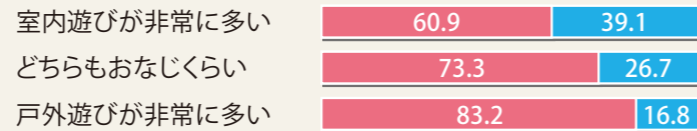
自由な身体を動かす遊びのとき



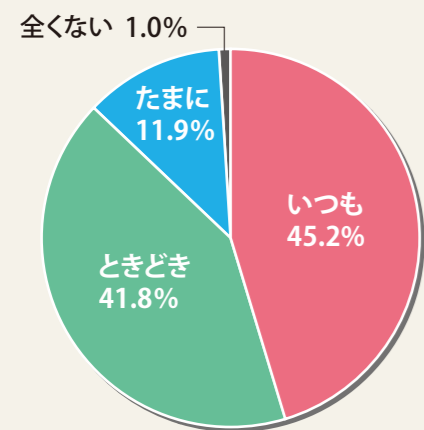
自由な遊びのとき一緒に遊ぶ友達の数



家庭での遊び場所

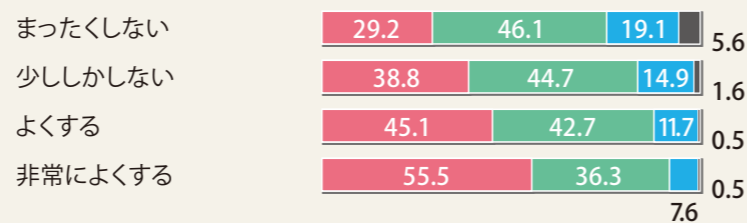


やる気がある



幼児の意欲と関係がある運動習慣等の項目はなにか分析を行ったところ、「活発に体を動かすこと」と「やる気がある（何でもやってやろうという気持ち）」には関係があることがわかりました。

体を活発に動かす遊びをする頻度



調査概要（抜粋）

幼児の運動能力調査

25m走、立ち幅跳び、ボール投げ、両足連続跳び越し、体支持持続時間、捕球の6種目を学級ごとに測定した。

標本数 平成19年度：1,775人
平成20年度：3,615人
平成21年度：3,536人

保護者への聞き取り調査

幼児の運動習慣・生活習慣、保護者の意識等について保護者に調査票を配布し自記式で回答してもらった。

標本数 平成19年度：2,147人
平成20年度：3,626人
平成21年度：3,521人

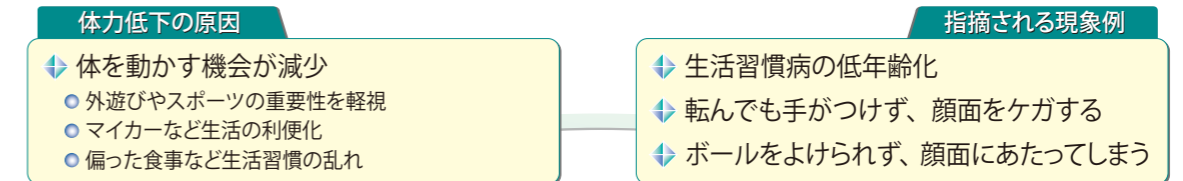
報告書全体については文部科学省ホームページ http://www.mext.go.jp/a_menu/05_c.htm に掲載しています。

健康で活動的な子どもを育てよう

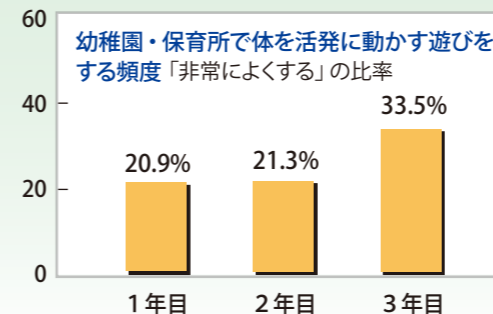
「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究」より

子どもの体力低下が問題となっています

幼児期における体を動かす機会や環境を充実させていくことが大切です

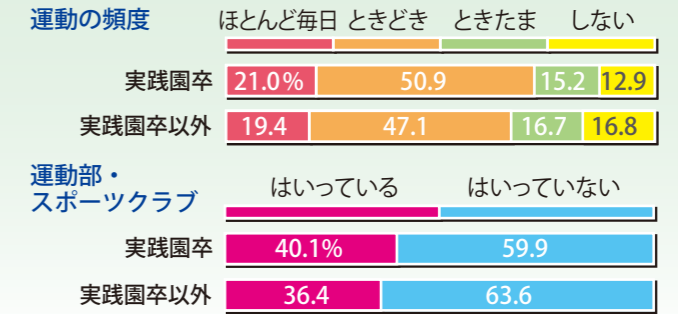


活発に体を動かすようになった



※幼児の運動能力調査における担任への質問に対する回答結果

就学後の運動頻度が高い



※実践活動を行った幼稚園・保育所を卒業した児童とそれ以外とを比較した結果



実践活動事例とその効果

文部科学省スポーツ・青少年局では、平成19～21年度の3年間にわたり、「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究」を行いました。全国21市町村の実践地域を指定し、各教育委員会が中心となって実践協議会を設置して、単に体力向上を図るだけでなく、幼児の望ましい生活習慣の形成、運動習慣の改善や定着化等を図ること、また幼児の運動や体力に関する大人（保護者や保育者）の意識の改善を図ることを目的として、実践活動を展開しました。

■ 当該園 ■ 全体

生活習慣が改善した

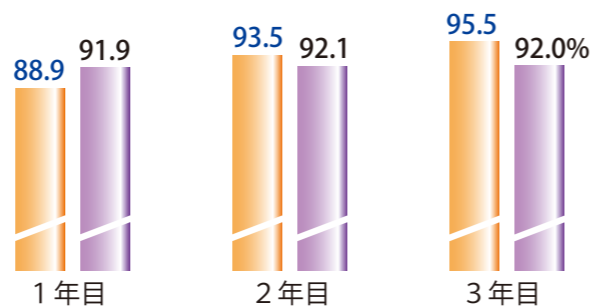
『生活習慣チェックシート』の導入

千葉県いすみ市

家庭での夜や朝の状況を保護者に一週間記録してもらい、保育所で振り返りました。



朝食摂取状況*「毎日食べる」の比率



朝食を食べない幼児が減った、テレビを2時間以上見ていた幼児が減った、家のお手伝いをさせている家庭が増えた等生活習慣が大きく改善しました。

一緒に遊ぶ友達が増えた

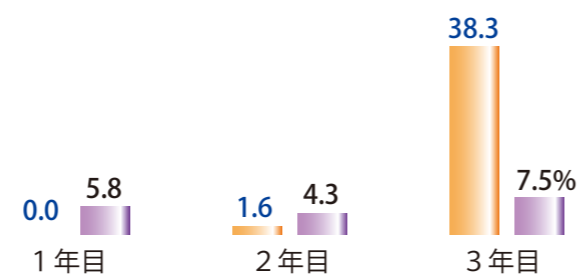
友達との外遊びのきっかけを作る大学生スタッフ派遣

沖縄県中城村

友達同士の外遊びを自発的に行えるよう、大学生が遊びのきっかけを作りました。



自由な遊びのとき、よく一緒に遊んでいた友達は何人くらいですか。*「6人以上」の比率



自由な遊びのとき、よく一緒に遊ぶ友達の人数が多くなる等運動習慣が大きく改善しました。

保護者の意識が変化した

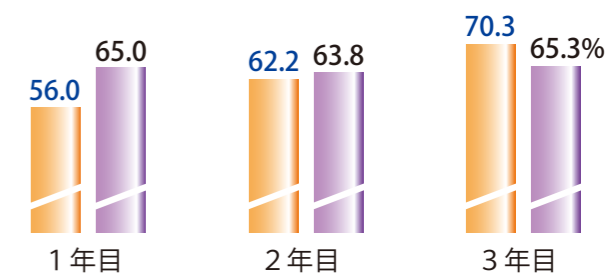
早朝の園庭開放

和歌山県和歌山市

朝の9～10時はいつでも見学できるようになったことで健康への意識が変わり、保護者同士の関わりも増えました。



お子様が自分の体を動かす遊びや運動・スポーツする様子について話しかけてきたりした時にはいっしょけんめい聞く。
*「毎日」の比率



子どもと体を動かす遊びについての会話を毎日するようになる等、保護者の意識が大きく改善しました。

地域や保護者との連携が深まった

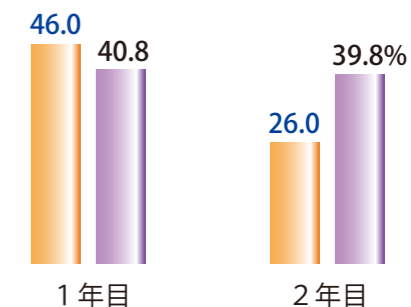
コミュニティがバックアップする山遊び

岐阜県多治見市

回覧板でボランティアを募りました。保護者と地域の方が見守る中、裏山を走り回りました。



地域で行われたスポーツや運動の行事・イベントに参加する。
*「全くない」の比率



保護者が子どもと一緒に地域のスポーツや運動のイベントに参加する機会が増えました。

運動の得意な子どもが増えた

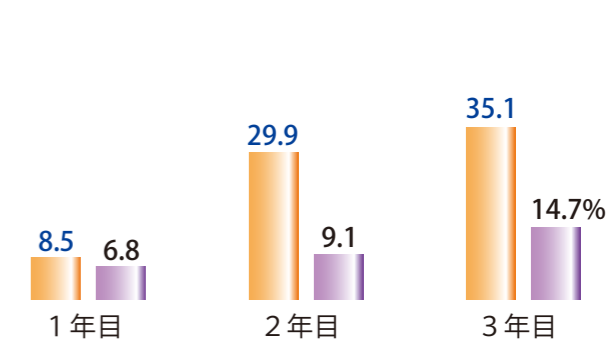
『したいを育てる』手作り遊具を作成

栃木県大田原市

限られた園庭の中で、投げて遊ぶ動きができるよう、『ボールキャッチ』を教員が自分たちで作りました。



運動能力調査：体力総合評価 *「A判定」の比率



ボール投げをはじめとして、運動の得意な幼児が2年で4倍に増えました。